

だった市村和之さん(51)「緒にやっていると実力は」その夏の大会こそ熊谷一回表に...

川口リトルで川口市役所の日高さん

「笑顔今でも忘れず」

斎藤氏は川口市の少年硬式野球チーム「川口リトルリーグ」出身。当時、斎藤氏は捕手で、投手としてバッテリーを組んだ

日高茂さん(51)は現在、川口市役所福祉総務課主任幹だが、幼なじみの殿堂入りのニュースに、「素晴らしい」と自分のことのように喜んだ。

日高さんが小学4年生で入団。1年後の1975年、小学5年生の斎藤氏が入団した。「今でも同窓会で話題になるが、斎藤はほかの仲間より1

年遅れて入団した。6年生になっても同級生を君付けで呼んだ。同級生たちは君付けをやめると言うのだが、なかなかやめなかつた。それほど、謙虚で優しい性格だった」と振り返る。

86年発行の15周年記念誌で、斎藤氏はこう振り返った。「そのころの僕は他の人より身体も小さかつたので、みんなに付いて行くのには、より多く練習をしなければレギュラーになることは難しいと思いました」



「斎藤がんばれ」と話す日高茂さん。手に持つ写真は川口リトルリーグ時代のチーム。左から2人目が日高さん。捕手のプロテクターをつけるのが斎藤雅樹氏。川口市役所

日高さんは「彼は自宅に帰ってから人知れず素振りをやっていたのでは

ないだろうか。グラウンドでは一番声が大きかつたし、元気があった。だから捕手に抜てきされたのだと思う」と言う。

当時の斎藤さんの笑顔を今でも忘れないという。「斎藤はいつもニコニコしていた。ピンチの時もニコニコしてマウン

ドに駆け寄ってきて『楽に行こう』『ドンマイだ』と励ましてくれた」

その後、高校時代に斎藤氏との再会時、彼の成長ぶりに驚いたという。「斎藤はリトル時代は体は小さかつたが、高校では彼の方が大きくなっていた。大逆転だった。そのころ『おい、巨人になったな』と言ったものです。それがその後、ほんとに巨人軍に進んで、偉大な投手になった」

日高さんは現在、安倍政権のアベノミクスの最先端のひとつ、福祉給付金事業プロジェクトチームのリーダーとして多忙な毎日を送る。「今も斎藤君を心から応援しています。頑張ってください」

(岸鉄夫)